

アンパンマンの生みの親・やなせたかし(1919-2013)の初の大規模巡回展です。漫画家、詩人、絵本作家、イラストレーター、デザイナー、編集者など多彩な活動を繰り広げたやなせは、極上のエンターテイナーでもあります。彼は「人を喜ばせること」を、人生最大の喜びとしていました。

苛酷な戦争体験、家族との別れ、様々な人との出会いに揉まれ、「なんのために生まれて、なにをして生きるのか」を自分に問い続け

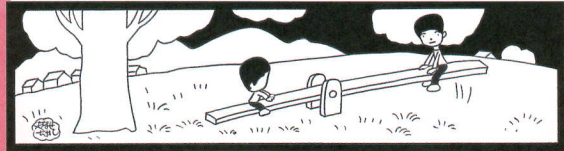
たやなせが辿り着いたのは、かっこ悪くても、本当に困っている人に一片のパンを、「あんぱん」を与えられるヒーロー像です。

本展は、2026年にやなせたかし記念館アンパンマンミュージアムが30周年を迎えることを記念し、原画約200点を中心に、「やなせたかし大解剖」「漫画」「詩」「絵本/やなせメルヘン」「アンパンマン」のテーマで作品を紐解きます。私たちに勇気を与え続ける作品を是非ご覧ください。

1 やなせたかし大解剖

やなせたかしは94年間の人生をとおして、その作品世界を追求し続けました。漫画家、詩人、絵本作家、イラストレーター、デザイナー、編集者など多種多様な仕事に向き合い、少しずつ、自らの思いを表現するヒーロー像を形づくりました。

やなせの思いは、どのように育まれ、深められていったのか——。第1章では、やなせの歩みを一望できる特大年譜と貴重な初期作品や資料とともに、「やなせたかし」をつくったさまざまな要素を大解剖します。



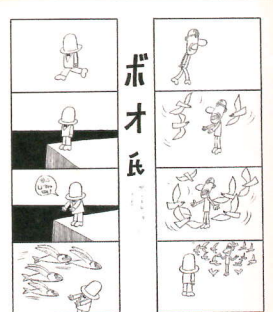
Yanase Takashi:

Life is about bringing joy to others

2 漫画 人とのつながり

子どものころから漫画家という職業に憧れを抱いていたやなせたかし。戦後、やなせは高知新聞社に入社しますが、漫画への思いが再燃し上京。1953年には漫画家として独立し、広告漫画や新聞への連載などを多く手がけます。しかし代表作には恵まれず、自身の進むべき方向を模索する日々が続きます。そんなやなせの転機となったのが、1967年のコマ漫画「ボオ氏」での「週刊朝日マンガ賞」の受賞でした。ずっと描き続け、自らが「パントマイム漫画」と名付けた、ウィットに富んだセリフのない漫画を確立したのです。

第2章では、多彩な画風のコマ漫画や、「ボオ氏」の原画などを展示。今見ても色あせることなく、誰もがクスッと笑える魅力にあふれた作品の数々をご覧ください。

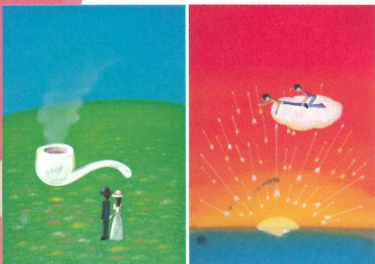


3 詩 うたうように生まれる

やなせたかしは、1961年に「手のひらを太陽に」を作詞。1963年には初の詩集『こどもごころの歌』を自費出版し、その後も晩年まで詩作を続けました。1973年に創刊された、詩と絵を中心とした雑誌「詩とメルヘン」では30年間にわたり編集長を務めます。

誰もが身近に感じられるような雑誌や詩集を通して、人々の生活を豊かにしたいというのがやなせの願いでした。

第3章では、抒情の世界をひろく発信し続けた雑誌「詩とメルヘン」の表紙原画や直筆の詩作品から、読む人の心にそっと寄り添う、やなせの詩の世界を巡ります。



やなせの物語には、血の繋がりが無い家族の絆、種を超えて互いを思いやる心、外見でなく本質を見る大切さといった、「子ども向け」という枠

に囚われることのない普遍的なテーマが描かれています。

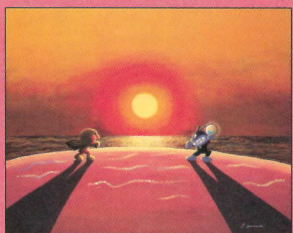
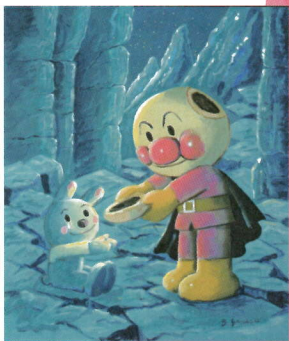
第4章では『やさしいライオン』や『チリンのすず』、『しろいうま』などの絵本の原画を展示。やなせが紡ぐ物語の真髄に迫ります。



5 アンパンマンの誕生

1973年、やなせたかしは絵本『あんぱんまん』で、ポロポロのマントを身にまとったキャラクターを描きます。それはアンパンでできた顔を食わせて人を救う自己犠牲のヒーロー。その姿に込められた「自分を犠牲にしても、困った人を助けることが大切だ」というメッセージは世代を超えて共感を呼び、1988年のテレビアニメ化で国民的キャラクターとなりました。

第5章では、やなせ自身がアンパンマンを解説した作品や絵本原画、各キャラクターの象徴的なシーンを描いたキャンバス画などで、アンパンマンの誕生からその広がりを紐解きます。



epilogue 人生はよろこばせごっこ

やなせたかしの創作活動の根底には、人を喜ばせようとする精神があります。84歳で歌手デビューを果たしたやなせは、自らを「オイドル(老いどる)」と称し、数多くのステージやパーティーを企画してタキシード姿で歌い踊るなど、人々を楽しませることに心を注ぎました。その姿は「人生はよろこばせごっこ」というやなせの人生観の結晶でもあります。

エピローグでは、やなせが企画したパーティー映像やステージ衣装、晩年の作品などを紹介します。やなせの遊び心あふれる「よろこばせごっこ」の世界をお楽しみください。



- 1「手のひらを太陽に」制作年不明
- 2「おとうものがたり」「シーソー」1977年
- 3「ボオ氏」より「鳩とトビウオの巻」1967年
- 4「詩とメルヘン」1979年4月号表紙絵「陽炎は春がくゆるすパイプのけむり」
- 5「詩とメルヘン」1978年8月号表紙絵「ついにぼくは夜明けの光の矢をにぎったぞ」
- 6「いちごえほん」1976年2月号表紙絵「雪の天使の2月号」
- 7「チリンのすず」1978年
- 8「やさしいライオン」1975年
- 9「顔をあげるアンパンマン」1996年
- 10「アンパンマン伝説」「ばいきんまん登場」1997年
- 11「夕陽の決闘」1998年
- 12「やなせうさぎとアンパンマン」(部分)制作年不明

©やなせたかし

(公財)やなせたかし記念アンパンマンミュージアム振興財団蔵

やなせた

1919年、高知県出身(本名:柳瀬嵩)。東京高等工芸学校工芸図案科(現千葉大学)卒業後、東京田辺製薬宣伝部に入社。徴兵され復員後は高知新聞社で雑誌編集を担当。1947年上京、三越百貨店宣伝部を経て53年に漫画家として独立。舞台美術、作詞、ラジオ・テレビの構成も手がける。67年、「ボオ氏」で週刊朝日マンガ賞受賞。73年創刊の雑誌「詩とメルヘン」(サンリオ)の編集長を務めた。同年『あんぱんまん』(フレーベル館 月刊絵本「キンダーおはなしえほん」)発表。88年にテレビアニメ「それいけ!アンパンマン」放送開始。国民的



関連イベント ※イベントの詳細・申込は世田谷文学館ホームページをご確認ください

1. 音楽劇

ボクたちのうた 手のひらを太陽に
 やなせたかしと作曲家のいずみたくの歌を中心に、
 若き芸術家の二人が出会い、歌を生むまでの物語を
 ピアノのライブ演奏と共に綴ります。

7月4日(土)17:00開演(上演時間:約50分)
 出演=ミュージカルカンパニー イッツフォーリーズ
 演奏=吉田さとる
 会場=世田谷文学館1階 文学サロン
 参加費=1,000円 定員=100名(抽選制事前申込)



2. 記念講演会

「詩とメルヘン」の精神

7月11日(土)14:00~15:00
 出演=小池昌代(詩人・小説家)
 会場=世田谷文学館1階 文学サロン
 参加費=500円 定員=100名(当日先着)



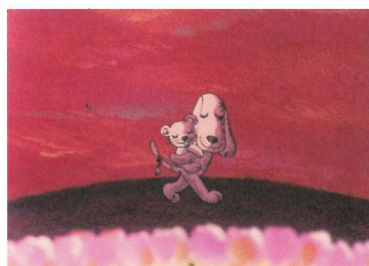
3. 映画上映(DVD)

(1)映画『千夜一夜物語』[※]

(1969年公開)
 7月25日(土)10:10~12:20(128分)
 会場=世田谷文学館1階 文学サロン
 参加費=無料
 定員=100名(大人向け、当日先着)

(2)映画『やさしいライオン』

(1970/1998年製作)
 7月26日(日)①10:10~10:40
 ②11:00~11:30(27分)
 会場=世田谷文学館1階 文学サロン
 参加費=無料 定員=100名(当日先着)



©手塚プロダクション



©手塚プロダクション

4. 出張展示バナー・館内展示

やなせたかしの新アラビアンナイト

7月22日(水)~9月6日(日)予定 会場=世田谷文学館1階 文学サロン
 参加費=入場無料(イベント開催時は閉室) 協力=やなせスタジオ、クレヴィス

5. 光村図書共催イベント(共催イベントの詳細・申込は光村図書ウェブサイトをご覧ください)

(1)講演会「国語教科書教材『やなせたかし—
 アンパンマンの勇気』に込めた思い」

7月20日(月祝)14:00~15:30
 出演=梯久美子(ノンフィクション作家) 会場=世田谷文学館1階 文学サロン
 参加費=500円 定員=150名 申込=光村図書ウェブサイト



(2)関連展示「『やなせたかし—アンパンマンの勇気』
 教材紙面展示、教科書のひみつ展示」

7月20日(月祝)10:00~17:30
 会場=世田谷文学館1階 文学サロン 参加費=入場無料(講演会の時間帯は閉室)

(3)ワークショップ「プロの仕事に挑戦! 教科書作り体験」

7月20日(月祝)①10:15~②11:00~(30分程度)
 会場=世田谷文学館2階 講義室 参加費=100円 対象=小学校3年生~
 6年生 定員=各回20名(抽選制事前申込) 申込=光村図書ウェブサイト



展覧会チケット

当日券及びオンラインチケットを販売いたします

一般	1,500(1,200)円
65歳以上・大学・高校生	900(720)円
中学生以下	無料

障害者手帳をお持ちの方750(600)円 ※ただし
 大学生以下は無料/()は団体割引・せたがや
 アーツカード割引料金 ※当日券のみ/7月3日
 (金)は65歳以上観覧料無料/お電話でのご予
 約は受け付けておりません
 オンラインチケットサイト <https://e-tix.jp/setabun>



ミュージアムショップ

展覧会オリジナルグッズなど140種以上を販売します。
 詳しくは展覧会公式サイトをご覧ください。
<https://www.nhk-fdn.or.jp/yanasetakashi-ten>
 *商品の在庫に関するお問い合わせにはお答えできません。
 予めご了承ください。



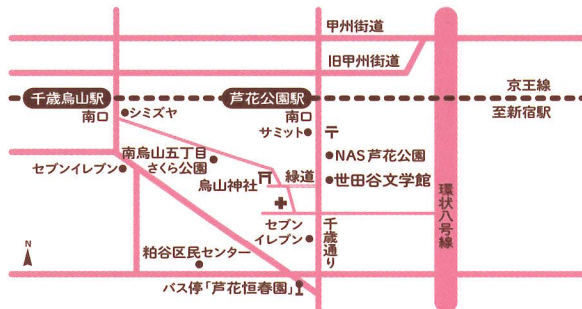
©やなせたかし

世田谷文学館

<https://www.setabun.or.jp>
 〒157-0062 東京都世田谷区南烏山1-10-10
 tel 03-5374-9111 fax 03-5374-9120

交通案内
 京王線「芦花公園」駅南口より徒歩5分 / 「千歳烏山」
 駅南口より徒歩15分 / 小田急線「千歳船
 橋」駅より京王バス利用(千歳烏山駅行)「芦
 花恒春園」下車徒歩5分

*展覧会の会期及び内容が急遽変更や中止になる場
 合があります。ご来館前に当館HPをご確認ください。



同時開催コレクション展
 「没後30年 宇野千代展—恋と創作の若き日々—」
 4月18日(土)~9月6日(日)

次回企画展
 「ヤマザキマリ展」(仮称)
 10月3日(土)~2027年2月7日(日)

